

# 2023 年夏季 グローバル・インターンシップ(GI)プログラム 参加報告書

学部: 経済学部 学科: 金融学科 学年: 4 年

## ① インターンシップ先

TOPC Potentia P.C という日系の会計事務所で2週間研修した。社長が日本人で、30人くらい社員がいて、約半分が日本人でもう半分は韓国人や中国人であった。ほとんどがリモートで働いており、オフィスには出向いてない。大体自分のほかにオフィスには5人くらいが出勤していた。この企業が行っている業務としては、会計に加えて、ITを活用したコンサルタント業務であった。会計を通してクライアントのお金の動きがわかるため、経費が年々嵩んできているなどの変化も把握することができ、そのような動向に対してコンサルタント業務も行っている。そのコンサルタントを行う上で、Power BIというデータをグラフなどに可視化してくれるソフトを使ってレポートを作成している。

## ② 参加の目的

主に2つある。1つ目は企業でデータ分析の仕事に携わりたかったからである。授業を通してデータ分析を行うことはあっても、それが実際どのように業務で活用されているのか体験してみたかった。2つ目は大学院で勉強する前に自分に必要な能力を知りたかったから。大学院ではデータサイエンスを勉強するつもりで、このインターンシップを通して、将来働く上で現在の自分に欠けている部分を見極めたかった。アメリカに渡航する前は英語を使って業務を行ってみたいと思っていたが、ライトハウスから提示された研修先がこの会計事務所であった。英語を使って働くというよりはデータ分析志向が強かったが、会計事務所での研修を受け入れた。

## ③ 現地での活動内容(1週目の合同ビジネス研修について)

このプログラム全体として、労働するというよりも、お金を払って労働して教育を受けるという面が強く、特に1週目は企業で研修する上で必要最低限のことを教わった。主に教わったことは2つある。1つ目は見ず知らずの人とコミュニケーションを取る。他のプログラム参加者と5~6人のグループに振り分けられ、ロサンゼルスダウンタウンを観光するなど、皆で訪れるスポットを決めるなど話し合う場面があった。2つ目は質問力である。人の説明を聞いて全てを理解することは難しく大抵は知った気になっているが、実際わかっていないことがあり、少しでも疑問に思ったことはすぐ質問するようにと教えてもらった。ケーススタディを用いて業務でどのような状況が考えられるか練習した。例えば、「ファイル整理をしてください」と研修先で指示された場合、インターン生がファイル整理を行ったが、指示した側からすると間違っていたため、結局最初からファイル整理をやり直すことになってしまった。この事例に対して、「どのように整理すればいいか」と質問する、また「なんのために整理するか」目的も質問する。そうすればどのように整理したらよいかわかりやすくなるなどの案が出た。

具体的な合同研修の内容として、3世代の人達のお話を聞いた。

50~60歳の社長の2人にどのように会社を動かすかという話を聞いた。ホテルを経営している社長の方は”Employee First”で普段から業務を行っている。この考えは社長が従業員を大切にすれば、従業員はお客様を大切にしてくれる、という考えである。だから、コロナの時どれだけの感染力とどれだけ重症化するかがわからなかったから、まず従業員を守るためにすぐにホテルを閉めた。その間にホテル内にお客様が一人もいないという珍しい期間を、好機と考えて改修工事を行った。この社長は普段から何事も前向きに考えるようにしていると言っていた。そのことが功を奏した場面

であった。また、一人の人間として個性と品性が大事であると言っていた。その磨き方も教えていただいた。自分を大切に自分の考えを持つことで、その個性が品性として現れ、やがて品格となる、と言っていた。その社長が大切にしている考え方は、普段からポジティブな言葉を使うということであった。

次の世代は 30~40 歳のアメリカで働いている方々である。自分たちの 10 年後くらいの目標とする方々で、自分の将来像と重ね合わせて質問することができた。アメリカで働くことを将来考えたとき最もネックなのは、ビザの申請と言っていた。今回出席した方々がアメリカで働くに至った経緯は 2 種類あった。1 つは、日本で就活をして日系企業に勤めて、その後成績などを評価されて、アメリカへ駐在員として派遣された。もう 1 つは、アメリカの大学を出てそのままアメリカで就職する人もいた。アメリカの大学に入学する方法も様々で、例えば高校を卒業してアメリカの短大を 2 年で卒業して、現地の大学に編入して 2 年で卒業したという方がいた。短大は入りやすく良い成績で卒業すればアメリカの大学に入学できるが、学費が留学生は 3 倍くらいで、それに加えてその期間はホームステイだからその分のお金もかかるというデメリットもある。

個人的には同世代の人と話すのが楽しかった。University of California Los Angeles (UCLA) の学生たちとの交流会があり、日本とアメリカで働くことの違いをディスカッションしてそれをまとめて発表した。自分たちのグループは就活にフォーカスして日本とアメリカの違いをまとめた。英語の勉強にもなったし、アメリカの就活の常識を聞くことができた。具体的には、大きな違いが 2 つある。1 つ目は、長期のインターンをして、その企業にそのまま就職するのが主流であること。その長期のインターンシップの応募のやりかたとして、友達の紹介などで始めることもある。2 つ目は、応募の際に提出する履歴書はフォーマットなど決まった形式がないこと。日本のエントリーシートは大体、志望動機や学生時代に力を入れたことなどの質問に答える形になっていて字数も決まっていたりする。アメリカは白紙に自分で書きたいことやその順番を決めることができ、自由に自分をアピールすることができる。

#### ④ 現地での活動内容(2 週目以降のインターンシップについて)

自分の担当の方は社内のシステム担当で日本人だった。初日に社長と担当の方とミーティングを行い、社長から「データ更新を自動化したい」と口頭で言われて、2 週間その課題に取り組んだ結果成し遂げることができた。

具体的に 2 週間でやったことは以下のことである。まず研修先の会計事務所にあった課題は、以前は Power BI Desktop というデータ可視化ソフトでしかデータの更新ができないし、リアルタイムではデータを更新することができないことだった。これの問題点として、例えば売上が 5 万ドルに伸びたというデータを追加したいとき、データを更新してそれを発行してレポートとしてクライアントに提出するのは手間と時間が掛かる。社長曰く、この問題を Microsoft Fabric というソフトなら解決できそうということまではわかっていた。この Fabric というソフトは 2023 年の 5 月に発表されたソフトで、データを One Lake というところに保存して、そのデータをデータ分析、データエンジニアリング、データサイエンスなどに使うことができるソフトである。今回はこの Fabric のデータ分析の機能を主に使った。まとめると、自分が 2 週間でやることとして、自分が Fabric について勉強して社長とシステム担当の方にレクチャーする。特にデータ更新について勉強して、自動化できるようにするということがあった。

調査した内容は、2 つある。1 つ目は Fabric に以前社長が使っていた Power BI Desktop でのレポートを Fabric に取り込むことができるのか。2 つ目は、データの更新を自動化できるのか。まだ新

しいソフトなので、日本語で Fabric について説明しているサイトが少なかったため、英語のサイトや外国人の YouTube を見て調査した。英語で情報を得ることは大変だったけれど、大学生活でも同じように勉強していたので、英語を使って勉強していたことが役に立った。

結果、Power BI のレポートを取り込むことができた。また、更新をスケジュールすることでデータ更新の自動化ができた。社長が研修最終日に言っていたのが、「0 から新しいソフトを勉強するのはものすごく労力が必要だが、伊藤君がデータ更新の自動化をすることができてそれを通して Fabric について知ることもできたので、その労力がかなり減った」と感謝してくれた。

### ⑤ インターンシップによって得られた学びや気づき

やはりアメリカで研修しただけあって英語を使う機会が多かったため、英語の勉強になった。自分の研修先は日替わりで社員の方が昼食に連れて行ってってくれた。韓国人の方が当番の時は英語で会話をした。毎週金曜日は、社員の考え方が同じ方向に向くために会議を行っていた。週によって内容が異なり、自分の参加したときのテーマは「情報を発信する」という内容でそれに関するエピソードとそこから感じたことを英語で述べた。インターン生は研修最終日に行ったことをプレゼンしなければならず、勿論社員は日本人だけではないのでそのプレゼンは英語で行った。自分は英語で物事を伝えるとなると言いたいことの 50%も伝えることができず、もっと普段から自分の考えを英語にする練習が必要だと思った。

社長にも言われたことだが、人間と現状の AI の違いについて学んだ。人間は、他人がやりたいことを実際にそれができるとどうかわからないし、どうやってやればよいかかわからないことを調べながら実行することができるが、現状の AI ではできないと感じた。今回の研修では、初日に社長が口頭で「最終的にデータ更新の自動化を行いたい」と言って、その時自分はイメージがわからず理解できなかったが、社長に質問をしていくことで、少しずつ分かってきて最終的にクリアすることができた。次は自分で気づいた人間と AI の違いについて、人間は最新の情報を活用できると感じた。実際社長に言われたことを文字にして Chat GPT に尋ねたが、Chat GPT にはまだ Microsoft Fabric についての情報がなかった。人間はウェブサイトや YouTube から最新の情報を取り込んで、さらにそれを活用できると思った。だから、自分は大学院でデータサイエンスを学ぶが特に情報系の分野の進歩は速いので最新の論文を読んでいこうと思った。

### ⑥ 準備期間・インターンシップ期間中に困ったこと、苦労したこと

業務においては、やることの確認で苦労した。自分は口頭だけで業務内容を指示されても全てを理解できず、最初に指示されたことと全く違うことをやってしまった。それ以降、「やることはこのような認識で合っていますか？」とオウム返しのように確認した。実際最終日に担当の方に逐一確認して煩わしかったですか、と伺ったところ、そんなことはなくむしろこのように確認してくれて良かったと言っていた。

生活面で苦労したことは、思ったよりも朝と夜が寒く、微熱を出してしまった。ロサンゼルスは乾燥していて気温は高く日差しは強いが暑く感じなく、むしろ寒かった。物価が高く、それに加えてロサンゼルスで日本食は他の食事と比べて高く、うどん 1 杯が 20 ドル(約 3000 円)くらいだった。バスの治安はあまりよくなかった。自分が朝 8 時くらいに出勤すると、大体バスの後ろの席で横になって寝ている人がいて、気づいたらその人が起きて大音量で動画を見ていた。

### ⑦ グローバル・インターンシップ(GI)プログラムに応募する後輩へのアドバイス

コミュニケーションをとることが大切だと思った。業務を行う上で人と話せて楽しいという意味でも大事だと思う。業務をする上で指示されて、少しでも疑問に思ったことは聞いた方がいいし分かっているでもそれは実は少しずれている可能性があるからしっかりコミュニケーションをとって確認した方がいいと思う。また、外国人の友達とかと英語でコミュニケーションをとることができると、得ることができる情報の量が増えると思う。実際自分は UCLA の学生からアメリカでのオーソドックスな就活事情を聴けて、就活の幅が広がった。

### ⑧ 思い出の写真

同じプログラムに参加した人のアメリカ人の友達が、ドライブで連れて行ってくれた Palos Verdes という小高い丘の上にある高級住宅地から見えるトーランスの景色。



研修先の方が、大谷翔平が所属する Angels の試合に連れて行ってくれた時の写真。この試合大谷翔平はバッターとして出場し、ツーベースヒットを打ったけれど、試合は 3-17 の大敗で最後の方は、Angels は内野手がピッチャーをやるといふ日本ではあまり見られない光景が見られた。

